

広島・海自

格闘訓練で3曹死亡

特別警備隊養成 集団暴行か 1人で15人相手

広島県江田島市の海上自衛隊第1術科学校で9月9日、特殊部隊「特別警備隊」の隊員養成課程に所属する小野弘喜3等海曹(当時25歳)が、15人を相手にした格闘技訓練中に意識不明となり、約2週間後に死亡していたことが分かった。訓練は通常1対1で行われるといい、海自警務隊は集団暴行の可能性もあるとみて傷害致死容疑で調査を始めた。

【宇城昇、矢追健介】



海自呉地方総監部などによると、3曹は同課程を辞退し、2日後は7月にも異動直前の男性隊員が同様の訓練で歯を折るなどのけがをしており、防衛省海上幕僚監部も呉地方総監部に事故調査委員会を設置した。

総監部によると、問題の訓練は素手で相手に立ち向かう「徒手格闘」。3曹は1人50秒



昨年6月に公開された海自「特別警備隊」の訓練(海上自衛隊提供)

対1で実施されることが多い。3曹の訓練には審判役と指導役の教官2人が付き添い、継続の意思を確認していたが、変調には気付かなかったという。特別警備隊は不審船

の立ち入り検査をするため01年3月に新設された。同広報室によると、特別警備課程は3月12月の約10カ月間。「訓練が過酷で脱落者が多い」(海自幹部)といい、遺族によると3曹も元の潜水艦部隊に戻る予定だった。

総監部は3曹が意識不明になった直後と死亡時に事故の概要を広報していたが、15人が相手だったことには触れていなかった。

「厳正に調査」
浜田防衛相
浜田靖一防衛相は14日、閣議後の記者会見で「ご家族の皆さんにとってかけがえのない息子さんが亡くなったわけですから、大変遺憾に思っている」と述べた。そのうえで「厳正に調査してできるだけ早く、しっかり対処していきたい」と話した。

「エリート部隊」の密室で

過酷な訓練か、集団暴行か。広島県江田島市の海上自衛隊で格闘技訓練中、小野弘喜3等海曹(当時25歳)が死亡した事故は、概要がほとんど公開されていない特殊部隊員の養成課程という「密室」で起こった。小野さんは2日後に異動予定で、父親は「海自からは『はなむけの訓練だった』と説明されたが、最後に何も言葉をかけられなかった」と肩を落とした。杉本正彦・呉地方総監は13日、「訓練中の事故とはいえ大変遺憾に思っている。隊員の遺族に申し訳ない」と話した。しかし死亡原因や背景などに触れなかった。

特別警備隊は北朝鮮の不審船が能登沖に現れた事件(99年3月)を機に、01年に創設された。江田島基地を本部とし、不審船の武装解除や無力化が主な任務。体力検定などの基準をクリアした隊員を対象に部隊が推薦し、本人が志願する「エリート部隊」とされる。

それだけに過酷な訓練でも知られており、ある海自幹部は「歯が折れたり骨折するのは当たり前。かなりの数が途中でやめている。厳しい訓練をしてやめたら、胸を張って(元の)部隊に戻れるという意識があったかもしれない」と話す。

父「1対15は聞いてない」
小野さんの実家は愛媛県内にあり、今月1日、実家近くで葬儀が営まれた。参列した知人によると、父親は「死んだ理由を知りたい」と涙ながらにあいさつしたという。父親は「1対15の訓練だったことは聞いていない。『徒手格闘』についての説明もなかった」と言葉少なに話した。

【牧正、矢追健介、土本匡孝、後藤直義】

訓練格闘自海

医官立ち会わず

脳外科搬送も1時間遅れ

と、3曹はいったん脳時ごろ治療を受けた。外科のない江田島市の「打っ手が無い」と呉市病院に運ばれ、午後6の病院に転送、到着し

たのは同7時すぎで、直接運ぶより1時間程度遅れた可能性がある。その後脳死状態となり、約2週間後の25日に急性硬膜下血腫で死亡した。関係者は「呉に直接運んでいれば、後遺症は残っても助かったかもしれない」と

話した。調査委が注目しているのは、危険を伴う特警隊の訓練で医官が立ち会っていなかった点。狭い場所での格闘訓練や潜水訓練では通常、緊急事態に対応できるよう医官を立ち会わせている。教官(2

等海曹)は剣道初段、少林寺拳法初段で、指導者の目安となる陸自の格闘技の課程も履修していなかった。3曹は初歩の格闘ができる程度で「15人の組み手に耐えられる技量を持っていたかは疑問」(海自幹部)という。

広島県江田島市にある海上自衛隊第1術科学校入校中の3等海曹(25)が15人を相手にした格闘訓練中に倒れて死亡した問題で、訓練当時は医官が立ち会っていなかったことが海自呉地方総監部の事故調査委員会の調べでわかった。3曹が脳外科のある同県呉市の病院に運ばれるまでに約2時間かかり、治療が遅れた可能性があることも判明。海自は安全管理に問題があったとみて、週明けにも中間報告を公表する。

亡くなったのは海自の特殊部隊「特別警備隊」の養成課程にいた

3等海曹(死亡後に2曹に昇進)。問題の訓練は9月9日午後、約3キロのランニング、2人1組の背負い登坂訓練をこなしたあと、午後4時45分から始まった。教官が2人立ち会った1対15の連続格闘訓練は、50秒組んで、交代時間が10秒というサイクルで行われた。調査委によると、3曹は2、3人目でふらになり、14人目であごに打撃を受けて尻もちをついた。別の学生らによって立たせられたが失神。この際、立ち会い教官は「酸欠か熱中症と判断した」という。関係者による

海曹死亡

「途中で意識飛んだ」

3カ月前 元同僚隊員が証言
集団格闘

海上自衛隊第1術科
学校入校中の3等海曹

れしかった」と複雑な
心境も吐露した。

元同僚隊員は5月
末、海自の特殊部隊「特

別警備隊」の養成課程
を辞退したが、その2

日前、残りの養成課程
学生16人と格闘訓練し

た。今回死亡した3曹
も含まれていた。

「前日に教官から突
然、『やってみるか』

問題に絡み、事故の3
カ月前に同様の訓練を

経験してけがをした元
同僚隊員(25)が毎日新

聞の取材に、「意識を
失うような厳しい訓練

だったことをもっと訴
えるべきだった」と話

した。教官が「手を抜
きなよ、こいつのため

にならんぞ」と声をか
けたとも証言。一方で

「去っていく私に真剣
3人目以降記憶はあま

訓練中に倒れ死亡した

元同僚隊員は5月
末、海自の特殊部隊「特

別警備隊」の養成課程
を辞退したが、その2

日前、残りの養成課程
学生16人と格闘訓練し

た。今回死亡した3曹
も含まれていた。

「前日に教官から突
然、『やってみるか』

と言われ、どんな訓練
かも分からず始まっ

聞の取材に、「意識を

失うような厳しい訓練

だったことをもっと訴

えるべきだった」と話

した。教官が「手を抜

きなよ、こいつのため

にならんぞ」と声をか

けたとも証言。一方で

「去っていく私に真剣

3人目以降記憶はあま

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく
い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし
ていた」という。

元同僚隊員は少し空
手経験があったた

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく
い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし
ていた」という。

元同僚隊員は少し空
手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく
い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし

ていた」という。

元同僚隊員は少し空

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく
い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし

ていた」という。

元同僚隊員は少し空

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく
い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし

ていた」という。

元同僚隊員は少し空

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく
い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし

ていた」という。

元同僚隊員は少し空

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく
い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし

ていた」という。

元同僚隊員は少し空

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく
い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし

ていた」という。

元同僚隊員は少し空

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく

い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし

ていた」という。

元同僚隊員は少し空

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

態で立って組み手をし

ていた」という。

元同僚隊員は少し空

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく

い。「意識が飛んだ状

態で立って組み手をし

ていた」という。

元同僚隊員は少し空

手経験があつたた

りないが、3、4人目
に前歯が欠け、唇を切

り足首も痛めたらしく

い。「意識が飛んだ状

なった状態で打撃を受
け、防御が甘くなった
のだと思う」と気遣っ
た。

一方で「集団暴行・
リンチ」などと報道さ
れていることに違和感
があるという。「部隊
の特性上、課程を終え
た同期生たちは日々、

格闘訓練の継続につ
いては「私自身やめた
ほうが良いと強くない
つもりはない。でも、
また同じことを繰り返
すという心配もある」と
語った。